

マーケット概況（2020年11月）

11月の債券相場は、3日の米国大統領選挙で財政拡張政策を公約しているバイデン氏が優勢であるとの見込みから売り優勢で始まり、4日に債券先物12月限は一時151円63銭まで下落し、10年360回債の利回りは0.050%まで上昇した。しかし、米国上院選挙で共和党が過半数を維持する見通しとなり、大規模な財政出動の可能性が低下すると米国債は買い戻され、本邦債券市場も切り返す展開となった。9日に新型コロナウイルスに対する効果的なワクチンの治験結果が得られたとの報道が伝わるとリスクオン姿勢が強まり、日経平均株価は29年ぶりの高値を更新した。一方、債券市場ではベアステープ化が進み、11日に30年68回債の利回りは0.655%と2019年1月以来の水準まで上昇した。月央にかけては、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響や、ECBの追加緩和観測から債券相場は堅調に推移した。18日に行われた20年債入札を順調に通過すると、19日に10年360回債の利回りは0.010%まで低下し、20日に債券先物12月限は一時152円27銭まで上昇した。その後は、25日にダウ平均株価が史上初の3万ドルを超えたことや、第3次補正予算案での国債増発懸念などから債券相場の上値は重く、10年360回債の利回りは0.030%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は入札では-0.08%~-0.09%台で、セカンダリー市場では-0.08%台後半~-0.11%台で安定的に推移した。6日の3M949回債入札は最高落札利回りが-0.0837%と前回債から横ばいでスタートした。13日・20日の3M入札では-0.09%台となり、セカンダリー市場では一時-0.116%まで低下したが、-0.10%を下回る水準では投資家需要が後退し、27日の3M955回債入札では-0.08%台に戻り、セカンダリー市場では-0.089%で月内の取引を終えた。6M金利は、3M金利に沿う形で-0.10%台を中心に推移した。1Y金利は、-0.13%~-0.15%台で堅調に推移していたが、月末の2年債入札が低調だったことで一時-0.12%台前半に上昇し、最終的に1Y952回債は-0.130%で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債は無く、ベンチマークとなる10年地方債のスプレッドは国債カーブ+10.0bpと前月比同水準を維持した。5年地方債のクーポンは8ヵ月連続で0.02%に決定し、10年債5年債ともに順調に消化された。既発債は、スプレッドがワイドニングする兆しは無く、需給は安定していた。社債は、例年11月は中間決算発表終了後から起債が本格化するため発行が抑えられることに加え、今年は米国大統領選挙や新型コロナウイルス感染症の再拡大懸念等が影響し、発行額は4,850億円と前年同月比1,100億円超減少した。楽天がハイブリッド債1,200億円を起債し、業種別ではサービス業がトップを占めた。SDGs債は、三菱重工業とキリンホールディングスが初めてグリーンボンドを起債した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#360	0.040(2日)	0.010(19日)	0.050(4日)	0.030(30日)
#359	0.030(2日)	-0.005(19日)	0.030(2日)	0.010(30日)
#349	-0.105(5日)	-0.110(9日)	-0.085(10日)	-0.100(27日)
#145(5Y)	-0.095(2日)	-0.125(20日)	-0.085(4日)	-0.105(30日)
#174(20Y)	0.415(2日)	0.375(20日)	0.415(2日)	0.395(30日)
#946-#954TDB(6M)	-0.104(2日)	-0.125(16日)	-0.097(24日)	-0.100(25日)
#948-#955TDB(3M)	-0.092(4日)	-0.116(13日)	-0.085(6日)	-0.089(27日)